

平成 29 年度石川県計画に関する 事後評価

**平成 3 0 年 1 0 月
石川県**

3. 事業の実施状況

平成29年度石川県計画に規定した事業について、平成29年度終了時における事業の実施状況を記載。

事業区分1：地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業	
事業名	【No.1（医療分）】 病床の機能分化・連携を推進するための基盤整備	【総事業費（H29）】 0千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	希望する医療機関	
事業の期間	平成29年10月1日～平成32年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	構想上必要とされる回復期病床約2,700床の整備を行うには、病床の転換に向けた施設・整備が必要不可欠である。	
	アウトカム指標：H29年度基金を活用して整備を行う不足している機能の病床数 回復期：260床	
事業の内容（当初計画）	医療機関の機能分化・連携により、効率的かつ効果的な医療提供体制の構築を図るため、以下の施設・設備の整備に対して支援を行う。 ・本県で大幅な増床が必要と考えられる回復期病床への転換に必要な施設・設備の整備 など ※ 地域医療構想の内容に応じ、回復期に限らず、本県で不足または、充実が必要とされる機能の整備や、過剰な病床機能からの転換等に必要施設・設備の整備に対して支援を行う予定。	
アウトプット指標（当初の目標値）	対象医療機関数：9施設（ほか未定）	
アウトプット指標（達成値）	—	
事業の有効性・効率性	—	
	—	
その他	※平成29年度は事業実施に向けた調整を行い、調整が済み次第事業を実施する	

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業	
事業名	【No.2（医療分）】 高度急性期機能強化・機能分化推進事業	【総事業費（H29）】 469,526 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県	
事業の期間	平成29年4月1日～平成31年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高度急性期及び急性期機能を担う医療機関の医療機能及び救急搬送体制を強化し、高度急性期治療が必要な患者を県内の基幹病院に集約させることにより、地域の医療機関の病床の急性期から回復期への転換を推進していく必要がある。	
	アウトカム指標：H29 年度基金を活用して整備を行う不足している機能の病床数 回復期：156 床	
事業の内容（当初計画）	高度急性期機能を担う医療機関における医療機能及び救急搬送体制の強化に向けた施設・設備整備。	
アウトプット指標（当初の目標値）	急性期から回復期への転換の対象となる医療機関数 14 施設	
アウトプット指標（達成値）	急性期から回復期への転換の対象となる医療機関数 14 施設	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標：H29 年度基金を活用して整備を行う不足している機能の病床数 回復期：157 床	
	<p>（1）事業の有効性 本事業により、高度急性期及び急性期機能を担う医療機関の医療機能及び救急搬送体制を強化した結果、地域の医療機関による急性期病床から回復期病床への転換が進んだ。</p> <p>（2）事業の効率性 一般競争入札等、適正な入札行為によって、工事業者の選定を行い、事業の効率性を確保した。</p>	
その他		

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業	
事業名	【No. 3 (医療分)】 脳卒中、認知症、小児科における関係機関の連携の確保	【総事業費 (H29)】 11,500 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	能登北部医療圏、能登中部医療圏、南加賀医療圏	
事業の実施主体	金沢大学附属病院 他	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	脳卒中、認知症、小児医療において、病床の機能分化をすすめ、構想上必要とされる回復期病床約1,050床（南加賀、能登中部、能登北部医療圏の合計）の整備を行うには、当該分野の急性期医療機関と回復期医療機関の連携の強化や回復期医療機関と介護関係機関のコーディネート体制の強化が必要不可欠である。	
	アウトカム指標： 南加賀、能登中部、能登北部地域の回復期病床 約1,050床 (H37)	
事業の内容（当初計画）	地域医療構想の実現に向けた病床の機能分化を推進するため、専門医が不足する医療機関で必要となる脳卒中、認知症、小児医療の多職種連携やコーディネート体制強化のための取組みに必要な経費に対する支援を行う。	
アウトプット指標（当初の目標値）	参加医療機関数 7機関	
アウトプット指標（達成値）	参加医療機関数 7機関	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標：南加賀、能登中部、能登北部地域の回復期病床 571床 (H29) ※H28に比べ114床増加しており、目標であるH37の約1,050床に向け、順調に推移している。	
	<p>(1) 事業の有効性</p> <p>専門医が不足する脳卒中、認知症、小児医療において、特に南加賀、能登中部、能登北部地域における診療体制についての検討や、多職種、多施設間の連携を推進するための研修会の開催により、上記3地域における診療体制が強化された。この結果、病院の医療機能の分化が進み、回復期病床への転換に繋がった。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>南加賀、能登中部、能登北部地域に医師を派遣している金沢大学附属病院が事務局となって取組を行っており、診療体制の構築に関して効率的な執行ができたと考える。</p>	
その他	※平成30年度基金を活用し、事業を継続	

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業	
事業名	【No.4 (医療分)】 回復期病床の維持に必要な医師を確保するための若手医師指導体制の強化	【総事業費 (H29)】 1,000 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	能登北部医療圏	
事業の実施主体	能登地域総合診療強化研究会 (事務局：恵寿総合病院)	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	医師不足が深刻化する能登北部医療圏において、構想上必要とされる急性期病床約160床、慢性期病床約100床を維持しつつ、回復期病床約150床を確保していくには、総合診療の知識を有する医師の確保が必要不可欠である。	
	アウトカム指標：能登北部地域の急性期病床 約160床 (H37) 回復期病床 約150床 (H37)	
事業の内容 (当初計画)	能登北部4病院において総合診療の研修会を実施し、1人1人の医師が、あらゆる病床機能に対応できる総合的な知識を身につけることにより、医師不足が深刻化する能登北部医療圏における病床の機能分化と回復期病床への転換を推進する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	総合診療に関する研修会の参加者数 200人	
アウトプット指標 (達成値)	総合診療に関する研修会の参加者数 221人	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標： 能登北部地域の急性期病床 475床 (H29) 回復期病床 52床 (H29) ※H29と比べ病床数に変化はないが、現在、能登北部の病院にて病床機能の見直しが検討されているところである。	
	<p>(1) 事業の有効性</p> <p>医師が不足している能登北部4病院において、若手医師に対して総合診療を学ぶ研修会を開催することにより、指導体制の強化および総合医を目指す専攻医の招聘と育成を推進した。その結果、病床機能の見直しを検討する病院が出てきている。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>恵寿総合病院を事務局とした研究会に実施してもらうことにより、効率的な執行ができたと考える。</p>	
その他	※平成30年度基金を活用し、事業を継続	

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業	
事業名	【No.5 (医療分)】 回復期病床における適切な看護の提供のための研修の実施	【総事業費 (H29)】 6,500 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	構想上必要とされる回復期病床約3,700床の整備を行うには、高齢者への対応力向上に必要な専門知識や実践力を備えた医療提供体制の強化が必要不可欠である。 アウトカム指標：県全域の回復期病床 約3,700床 (H37)	
事業の内容 (当初計画)	地域医療構想の実現に向けた病床の機能分化を推進するため、機能転換を行う医療機関で必要となる糖尿病看護・フットケア、がん看護、認知症看護、摂食・嚥下障害看護の専門知識や実践能力の習得に向けた研修会を開催する。	
アウトプット指標 (当初の目標)	分野別研修会の参加者数 160人	
アウトプット指標 (達成値)	分野別研修会の参加者数 197人	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標： 県全域の回復期病床 1,684床 (H29) ※H28に比べ258床増加しており、目標であるH37の約1,050床に向け、順調に推移している。 (1) 事業の有効性 回復期病床への転換の際に必要な専門知識に加え、回復期病床のあり方等を学ぶための研修会を開催したことにより、今後回復期病床への転換を実施するにあたって必要な知識を持つ看護師の養成を推進した。その結果、病院の医療機能の見直しが進み、回復期病床への転換に繋がった。 (2) 事業の効率性 それぞれの専門分野に強い病院に研修を行ってもらい、広く受講者を募集したことにより、効率的な執行ができたと考える。	
その他	※平成30年度基金を活用し、事業を継続	

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業	
事業名	【No.6 (医療分)】 糖尿病分野における医療機関の機能分化や連携体制の構築	【総事業費 (H29)】 7,772 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	各医療圏 (南加賀医療圏、石川中央医療圏、能登中部医療圏、能登北部医療圏)、県全域	
事業の実施主体	県医師会、郡市医師会 (糖尿病地域連携協議会)	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ ※	糖尿病の重症化予防を進めるには、回復期機能の強化が必要であり、構想上必要とされる回復期病床約3,700床の整備と併せて、回復期機能を活かすための医療機関間等の連携体制の構築が必要不可欠である。	
	アウトカム指標：県全域の回復期病床 約3,700床 (H37)	
事業の内容 (当初計画)	地域医療構想の達成に向けた病床の機能分化を推進するため、糖尿病の重症化を防止するための、専門病院とかかりつけ医、歯科・眼科をはじめとした医療機関間等の連携を強化する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	安定期治療を担う医療機関数 177 機関以上	
アウトプット指標 (達成値)	安定期治療を担う医療機関数 121 機関 安定期治療を担う医療機関リストへの掲載要件を厳しくしたため、要件を満たす医療機関が減少したことによるもの。	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標： 県全域の回復期病床 1,684床 (H29) ※H28 に比べ258床増加しており、目標であるH37の約1,050床に向け、順調に推移している。	
	<p>(1) 事業の有効性</p> <p>郡市医師会ごとに設置した協議会にて研修会等を実施することにより、実際に連携が必要となる医療機関間の連携体制を強化した。その結果、病院の医療機能の分化が進み、回復期病床への転換に繋がった。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>郡市医師会ごとに事業を実施することにより、県内全ての地域における連携体制について効率的に強化できたと考える。</p>	
その他	※平成30年度基金を活用し、事業を継続	

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業	
事業名	【No.7 (医療分)】 5 疾病 5 事業等における各医療機能の強化及び連携体制の構築	【総事業費 (H29)】 18,333 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	能登北部医療圏、県内全域	
事業の実施主体	多職種連携グループ	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ ※	構想上必要とされる病床の機能分化を行うには、5 疾病 5 事業等における各医療機能の強化を行うとともに、各医療機能相互の連携体制を構築することが必要不可欠である。	
	アウトカム指標：能登北部地域の急性期病床 約 160 床 (H37) 県全域の回復期病床 約 3,700 床 (H37)	
事業の内容 (当初計画)	能登北部医療圏における地域医療研修の実施や地域医療構想の実現に資する取組を実施する研究会等のグループを支援し、各医療機関等の役割分担、機能に対する理解を深めるとともに、連携を強化することにより、地域医療構想の達成に向けた病床の機能分化を推進する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	支援したグループの数 19 グループ/年	
アウトプット指標 (達成値)	支援したグループの数 39 グループ (H29)	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標： 能登北部地域の急性期病床 475 床 (H29) 県全域の回復期病床 1,684 床 (H29) ※能登北部地域の急性期病床は変更ないが、県全体の回復期病床は H28 に比べ 258 床増加しており、目標である H37 の約 1,050 床に向け、順調に推移している。	
	<p>(1) 事業の有効性</p> 各医療機関等の5 疾病 5 事業等に関する自主的な取組を支援することにより、各医療機関の機能分化や疾病ごと等の連携体制を強化した。その結果、病院の医療機能の分化が進み、回復期病床への転換に繋がった。 <p>(2) 事業の効率性</p> 各団体の事業内容を審査会で検討し、本県に必要なとされる事業に絞って実施することにより、効率的に執行できたと考える。	
その他	※平成30年度基金を活用し、事業を継続	

事業区分 2 : 居宅等における医療の提供に関する事業

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【No.8 (医療分)】 在宅医療・介護連携体制の推進	【総事業費 (H29)】 3,100 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県医師会	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>本県では、医療と介護の従事者が連携し、24時間365日、療養生活全般を支える一体的なサービスを提供できる体制を郡市医師会レベルで全県的に構築し、これまでに14の在宅医療連携グループを整備してきたところである。今後、この在宅医療連携グループを基盤とし、更なる在宅医療の質の向上に向け、多職種間の連携強化を図る必要がある。</p> <p>アウトカム指標：訪問診療を受けた患者数 70,059人 (H27年度) → 増加 (H29年度)</p>	
事業の内容	<p>県レベルの協議会等を設置し、今後の在宅医療の推進に必要な対策の検討を行うとともに、地域の在宅医療や介護の推進において中核となる者のレベルアップのための事業や広く県民への普及に係る事業を実施する。</p> <p>(3) 在宅医療推進に係る協議会等の運営 (4) 県民公開講座の開催 (5) 地域リーダー研修会の開催</p>	
アウトプット指標 (当初の目標値)	研修会の参加人数 150人	
アウトプット指標 (達成値)	研修会の参加人数 413人	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標：訪問診療を受けた患者数は調査結果が出ていないため確認できない</p> <p>(1) 事業の有効性 アウトカム指標である訪問診療を受けた患者数は調査の関係上把握できなかったが、各地域において在宅医療の中核となる在宅医療連携グループメンバーへのレベルアップ研修会や県民公開講座に、想定を大幅に超える参加があったことより、在宅医療の推進に効果があったと考えている。</p> <p>(2) 事業の効率性 石川県医師会と協力して実施することにより、実効的で効率的な執行ができたと考える。</p>	
その他	※平成30年度基金を活用し、事業を継続	

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【No.9 (医療分)】 訪問薬剤管理指導を行う薬局・薬剤師の在宅医療連携体制の推進	【総事業費 (H29)】 1,300 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県薬剤師会	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が75歳以上になる2025年には、慢性疾患を抱える高齢者が増加し、要介護高齢者の在宅での薬物療法が非常に重要となる。また、平成27年10月「患者のための薬局ビジョン」の中でも、薬局の求められる姿として、在宅対応に積極的に関与していくことの重要性が述べられており、薬局・薬剤師が、協議会への参加や研修を行い、自らの専門性を発揮し、地域におけるチーム医療の一員として在宅医療に積極的に関与していくことが求められている。	
	アウトカム指標：訪問診療を受けた患者数 70,059人 (H27年度) → 増加 (H29年度)	
事業の内容 (当初計画)	<p>薬局・薬剤師が、自らの専門性を発揮し、地域におけるチーム医療の一員として在宅医療に積極的に関与するため、薬局・薬剤師在宅医療参加促進事業を展開する。</p> <p>①協議会の開催及び多職種との連携 ②薬局・薬剤師在宅医療研修会の開催 ③無菌調剤室における調剤実技研修の実施</p>	
アウトプット指標 (当初の目標値)	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会開催回数 20回/年 ・薬局・薬剤師在宅医療研修会の参加人数 50人 ・無菌調剤室における調剤実技研修の参加人数 15人 	
アウトプット指標 (達成値)	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会開催回数 20回/年 ・薬局・薬剤師在宅医療研修会の参加人数 51人 ・無菌調剤室における調剤実技研修の参加人数 16人 	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標：訪問診療を受けた患者数は調査結果が出ていないため確認できない	
	<p>(1) 事業の有効性</p> <p>アウトカム指標である訪問診療を受けた患者数は、調査の関係上把握できなかったが、在宅医療に必要な多職種との連携やノウハウの習得に必要な研修会を実施することにより、在宅医療に関与する薬剤師の育成を推進した結果、在宅医療の推進に繋がっていると考えている。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>石川県薬剤師会と協力して実施することにより、実効的で効率的な執行</p>	

	ができたと考える。
その他	

事業区分 4 : 医療従事者の確保に関する事業

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.10 (医療分)】 産科医プログラムセミナーの開催	【総事業費 (H29)】 326 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニース	本県における産科医の人数は、出生者千人あたりでは全国平均を上回っているが、高齢化による退職と近年の研修医の就業を考慮すると、今後、減少が予想されることから、産科医を志望する若手医師の確保を図る必要がある。	
	アウトカム指標：出生者千人あたりの産婦人科医数 11.0 人 (H26) → 13.1 人以上 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	北陸3県の医学生等を対象に、産科医の魅力を伝えるとともに、新たな専門医制度における本県の産科医研修プログラムの紹介を行う。	
アウトプット指標 (当初の 目標値)	セミナー参加者数 40 人	
アウトプット指標 (達成値)	セミナー参加者数 8 人 H28 年度は北陸3県で合同開催した結果、40 人近い参加があったものの、H29 年度は本県独自で開催したため、参加者数が減少している。	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標：出生者千人あたりの産婦人科医数については、調査結果が出ていないため確認できない	
	<p>(1) 事業の有効性</p> <p>産科医を希望する若手医師を確保するため、医学生を対象としたセミナーを開催した結果、北陸3県合同で開催した昨年度と比べ、本県のみでの開催だったため、目標の達成に至らなかった。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>本県に定着しやすい、本県の医学生を対象として実施することにより、効率的な事業の執行ができたと考えている。</p>	
その他	※平成30年度基金を活用し、事業を継続	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.11 (医療分)】 緊急医師確保修学資金貸与事業	【総事業費 (H29)】 144,000 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	能登北部	
事業の実施主体	石川県	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニ ーズ	平成26年の能登北部医療圏における医師数は106人であり、人口10万人あたりで見ると、154.3人と全国平均の244.9人に比べて低い水準となっている。また、本県の他の地域と比較しても、人口10万人あたりの医師数は最も少なくなっている。能登北部の4つの公立病院では、平成16年から始まった臨床研修制度により医師数が減少したが、寄附講座等の取り組みにより、現在は臨床研修制度導入前の水準までほぼ回復している。一方で、4つの公立病院には、65歳以上の退職医師も勤務している状況であり、医師確保に重点的に取り組んでいく必要がある。	
	アウトカム指標：能登北部の人口10万人あたりの医師数 154.3人 (H26) → 増加 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	医師が不足している能登北部等の医師を確保するため、金沢大学医学類の入学者で、石川県の地域医療を担う医師を志す医学生に修学資金を貸与する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	新規貸与人数 10人/年	
アウトプット指標 (達成値)	新規貸与人数 10人/年	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標：能登北部の人口10万人あたりの医師数については、調査結果が出ていないため確認できない。 ※能登北部4病院の常勤医師数は60人 (H27) から64人 (H29) に増加している。	
	<p>(1) 事業の有効性</p> <p>能登北部を中心とした診療を義務とすることにより、能登北部4病院における常勤医師数は増加しており、医師の確保に一定の効果があつた。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>医師を能登北部へ派遣している金沢大学医学類の入学者に対して修学資金を貸与することにより、効率的な執行を図っている。</p>	
その他	※平成30年度基金を活用し、事業を継続	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.12 (医療分)】 看護師等修学資金貸与事業	【総事業費 (H29)】 73,700 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	能登北部	
事業の実施主体	石川県	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	能登北部医療圏については、65歳以上の高齢者人口割合が45.7%と県内では最も高齢率が高くなっており、今後、高齢化の進展により、医療ニーズがさらに高まっていくことが予想される。こうした中、能登北部医療圏の看護職員数は、平成28年は786人であり、人口10万人あたりでは1,180人と全国平均の1,160人をわずかに上回る低い水準にとどまっている。また、看護職員の高齢化も進んでいることから、新人看護職員の確保・偏在解消を総合的に図っていく必要がある。	
	アウトカム指標：能登北部の人口10万人あたりの看護職員数 1,180人 (H28) → 増加 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	看護職員が不足している能登北部等の看護職員を確保するため、能登北部等の病院への就業を希望する看護学生に対し、修学資金を貸与する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	貸与人数 20人/年	
アウトプット指標 (達成値)	貸与人数 20人/年	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標：能登北部の人口10万人あたりの看護職員数 (H29) については、調査結果が出ていないため確認できていない。 ※能登北部における病院の看護師の配置数は372人 (H29.4) から変化なし (H30.4)	
	<p>(1) 事業の有効性 看護職員の配置数に変化はないが、看護師の不足感がある能登北部地域での就業を義務とすることにより、本県における看護師の維持に効果はあった。</p> <p>(2) 事業の効率性 看護師が不足している地域を把握し、そこに就業することを条件に修学資金を貸与することにより、効率的な執行を図っている。</p>	
その他	※平成30年度基金を活用し、事業を継続	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.13 (医療分)】 認定看護師育成事業	【総事業費 (H29)】 6,983 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	認定看護師の資格取得費を負担する病院	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢化の進展により医療ニーズが多様化する中で、良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制を確保するためには、高齢者の看護において求められる専門的な看護技術の習得といった看護の質の向上も課題となっており、今後の医療ニーズに対応できる質の高い看護師の確保を総合的に図っていく必要がある。	
	アウトカム指標：高齢者の看護に必要な7分野の認定看護師 72人 (H28) → 増加 (H30)	
事業の内容 (当初計画)	高齢者の看護に必要な7分野 (皮膚排泄ケア、緩和ケア、訪問看護、摂食・嚥下障害看護、認知症看護、脳卒中リハビリテーション看護、慢性心不全看護) 及び感染管理看護の認定看護師の資格取得に対する支援を行う。	
アウトプット指標 (当初の 目標値)	資格取得者 40人/年	
アウトプット指標 (達成値)	資格取得者 15人/年 助成対象人数を40人に増加したが、7分野に限定していること、研修中の人員確保の問題もあり、受講者は当初の目標値を下回った。	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標：高齢者の看護に必要な7分野の認定看護師98人	
	<p>(1) 事業の有効性 経費負担等の事情から県外での長期間の研修受講が難しい医療機関等が受講者を出しやすくなり、県内全域で認定看護師養成の体制が作られている。その結果、高齢者の看護に必要な7分野の認定看護師数は増加している。</p> <p>(2) 事業の効率性 高齢者の看護に必要な分野に絞って支援を行うことで、看護師の質の向上及び医療体制の確保を効率的に実施できると考える。</p>	
その他	※平成30年度基金を活用し、事業を継続	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.14 (医療分)】 看護師等再就業支援事業	【総事業費 (H29)】 8,000 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>本県の看護職員数については、平成28年は17,422人であり、人口10万人あたりでは1,514人と全国平均の1,160人を上回っているが、能登北部では人口10万人あたりの看護職員数が他の3つの区域に比べて低い水準にとどまっており、地域偏在がみられる。高齢化の進展により医療ニーズが高まっていく中で、看護職員の確保・定着を図るためには、未就業の看護職員を掘り起こし、その再就業を支援していく必要がある。</p> <p>アウトカム指標：人口10万人あたりの看護職員数 1,514人 (H28) → 増加 (H29)</p>	
事業の内容 (当初計画)	<p>未就業看護職員を掘り起こし、再就業を支援するため、再就業を希望する看護職員に対して、病院等での研修機会を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者：経験年数1年以上で離職中の看護職員 ・研修期間：7～14日 	
アウトプット指標 (当初の目標値)	研修受講者 30人	
アウトプット指標 (達成値)	研修受講者 47人	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標：人口10万人あたりの看護職員数 (H29) については、調査結果が出ていないため確認できていない。</p> <p>※人口10万人あたりの病院の看護職員の配置数は1,033人 (H29.4) から1,039人 (H30.4) に増加</p> <p>(1) 事業の有効性 再就業を希望する看護職員へ病院等での研修機会を提供することにより、職場復帰への不安の解消と看護職員の確保・定着を同時に図った結果、人口10万人あたりの病院の看護職員数は増加した。</p> <p>(2) 事業の効率性 未就業の看護職員の職場復帰を支援することで、県内の看護師不足の解消を効率的に行えたと考える。</p>	
その他	※平成30年度基金を活用し、事業を継続	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.15 (医療分)】 災害医療機能強化事業	【総事業費 (H29)】 2,401 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	東日本大震災をはじめとする大規模災害や近年の全国各地での土砂災害等の局地災害の発生を踏まえ、県内の災害医療従事者の確保・対応力向上を総合的に図っていく必要がある。	
	アウトカム指標： 日本DMATインストラクター数 0人(H27) → 6人(H32)	
事業の内容 (当初計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 局地災害対応力向上に向けた石川DMAT研修・訓練の実施 ・ 災害発生早期から中長期に至るまでの災害医療関係者による研修・訓練の実施 ・ DMAT等の国の研修への派遣 	
アウトプット指標 (当初の 目標値)	研修・訓練の参加人数 100人	
アウトプット指標 (達成値)	研修・訓練の参加人数 24人 荒天等による中止のため予定していた局地災害対応力向上に向けた研修・訓練(3回)を実施できなかったため、参加者数は目標値を下回る事となった。平成30年度は年3回実施の予定。	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標: 日本DMATインストラクター数 3人(H29) (1) 事業の有効性 中長期的な災害を想定した訓練及びDMAT等の国の研修への派遣を実施した結果、日本DMATインストラクター数は増加し、本県の災害医療体制の強化に繋がった。 (2) 事業の効率性 これまでに国の研修を受けたDMAT等が中心となって訓練を実施することにより、効率的に執行していると考えられる。	
その他	※平成30年度基金を活用し、事業を継続	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.16 (医療分)】 医療現場環境改善事業	【総事業費 (H29)】 1,700 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県、石川県医師会	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>県内の外国人数の増加に伴い、外国人患者の受診も増加している中、医療機関には外国人患者に対しても安心・安全な医療の提供が求められる。</p> <p>しかし、外国語に対応できるスタッフが少なく、十分な対応ができないまたは対応に時間がかかっている状況であるため、外国人患者の受入体制を整備し、医療従事者が診療等に専念できるよう医療現場の環境を改善することにより、医療従事者の離職防止及び増加を図る必要がある。</p>	
	<p>アウトカム指標：人口10万人あたりの医師数 285.7人(H26) → 増加(H29)</p>	
事業の内容 (当初計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者を対象とした受付から診療、検査、医療費請求に至るまで、院内での一連の接遇に関する研修を実施 ・外国人患者が特に多い10病院をモデルとした電話医療通訳の試験試行 	
アウトプット指標 (当初の目標値)	研修会受講者数 200人/年	
アウトプット指標 (達成値)	研修会受講者数 87人 (H29) 今後とも石川県医師会の協力を得て、受講者の確保を図る。	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標： 人口10万人あたりの医師数 295.8人 (H28)</p>	
	<p>(1) 事業の有効性 外国人患者受入対応力の向上を図る研修を年2回開催したほか、電話医療通訳には県内37医療機関が参加しており、外国人患者の受入体制整備や医療現場の環境改善に寄与している。</p> <p>(2) 事業の効率性 公益社団法人石川県医師会の協力を得ることで、事業を効率的に実施している。</p>	
その他	※平成30年度基金を活用し、事業を継続	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.17 (医療分)】 地域医療支援センター運営事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 3,070 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	本県の平成26年の医師数は3,303人であり、人口10万人あたりでは285.7人と全国平均の244.9人を上回っているが、石川中央を除く3つの区域で全国平均を下回っており、医師の地域偏在がみられる。こうした医師が不足する地域における医師の確保・定着を図るためには、医師の配置調整機能や若手医師・医学生へキャリア形成を支援する体制の構築を図っていく必要がある。	
	アウトカム指標：人口10万人あたりの医師数 285.7人 (H26) → 増加 (H28)	
事業の内容 (当初計画)	県内の医師不足の状態等を把握・分析し、医師のキャリア形成支援と一体的に医師不足病院の医師確保の支援等を行うため、次の事業を実施する。 ① 医学部進学セミナー開催事業 ② 石川の地域医療人材養成支援事業 ③ 臨床研修医確保対策推進事業 ④ ふるさと石川の医療を守る人材ネットワーク推進事業	
アウトプット指標 (当初の 目標値)	・医師派遣・あっせん数 15人/年 ・キャリア形成プログラムの作成数 2 ・地域卒業医師数に対するキャリア形成プログラム参加医師数の割合 10割	
アウトプット指標 (達成値)	・医師派遣・あっせん数 5人/年 ・キャリア形成プログラムの作成数 1 ・地域卒業医師数に対するキャリア形成プログラム参加医師数の割合 10割 医師派遣・あっせん数はH29は5人のみだったが、H30には11人、その後も増加する見込みである。また、キャリア形成プログラムについては、H30に検討予定である。	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標：人口10万人あたりの医師数は調査結果が出ていないため確認できない。 ※医師不足地域である能登北部4病院の常勤医師数は60人 (H27) から64人 (H29) に増加している。	
	(1) 事業の有効性 医学生向けのセミナーの開催や金沢大学特別卒業生に対する進路相談等の実施、臨床研修セミナーへの参加、本県ゆかりの医療関係者間のネッ	

	<p>トワーク形成等により、学生、臨床研修医、既に他県で従事している医師など幅広く医師の確保やキャリア形成に向けた取組を実施した結果、医師の確保に繋がっている。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>医学生の指導に長けた金沢大学附属病院や、各臨床研修病院との連携、既に形成している本県ゆかりの医療関係者とのネットワークを活用することにより、効率的な事業の執行ができたと考える。</p>
その他	<p>※平成 26 年度基金と合わせて事業を実施した (H29)</p> <p>※平成 30 年度基金を活用し、事業を継続</p>

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.18 (医療分)】 女性医師就業継続支援事業	【総事業費 (H29)】 0 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県 (石川県医師会へ委託)	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	医師不足が問題となる中、近年増加している女性医師の出産や育児による離職を防ぐことが課題の一つとなっており、女性医師の仕事と子育ての両立を支援していく必要がある。	
	アウトカム指標：医療施設に勤務する女性医師の割合 17.6% (H26) → 増加 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	<p>女性医師が、女性として、医師として、生き生きと働くことができるよう、女性医師支援センターを設置し、女性医師の子育てと仕事の両立を支援する。</p> <p>① 女性医師のための相談窓口の設置・情報提供 ② 女性医師支援セミナーの開催 ③ 女性医師復職研修への支援 ④ 女性医師支援センターの機能強化</p>	
アウトプット指標 (当初の 目標値)	女性医師支援セミナー参加者数 100名 (H29)	
アウトプット指標 (達成値)	—	
事業の有効性・効率性	—	
	—	
その他	<p>※平成26年度基金にて事業を実施 (H29)</p> <p>※平成30年度基金にて事業継続</p>	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.19 (医療分)】 産科医等確保支援事業	【総事業費 (H29)】 0 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>本県における産科医の人数は、出生者千人当たりでは全国平均を上回っているが、高齢化による退職と近年の研修医の就業を考慮すると、今後、減少が予想されることから、産科医の確保・定着を図るためには、その処遇改善等を総合的に図っていく必要がある。</p> <p>アウトカム指標： ・手当支給施設の産科・産婦人科医師数 62人 (H28) →65人 (H29) ・分娩1000件当たりの分娩取扱医療機関勤務産婦人科医師数 10.3人 (H26) → 10.4人 (H29)</p>	
事業の内容 (当初計画)	医師・助産師に対する分娩手当及び研修医に対する研修医手当を支給する医療機関に対して、分娩件数及び研修医数に応じた助成を実施	
アウトプット指標 (当初の 目標値)	・手当支給者数 42人 ・手当支給施設数 20施設	
アウトプット指標 (達成値)	—	
事業の有効性・効率性	—	
その他	※平成26年度基金にて事業を実施 (H29) ※平成30年度基金にて事業継続	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.20 (医療分)】 臨床実習指導者養成事業	【総事業費 (H29)】 500 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県 (石川県看護協会へ委託)	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢化の進展により医療ニーズが高まっていく中で、良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制を確保するためには、看護の質の向上も課題となっており、今後、医療従事者の確保とケアの質の向上を総合的に図っていく必要がある。	
	アウトカム指標：看護師等養成所の卒業生の県内就業率 69.2% (H29) → 74.0% (H30)	
事業の内容 (当初計画)	看護師等養成所の実習施設に必要な実習指導者養成のため、講習会を開催する。	
アウトプット指標 (当初の 目標値)	養成者数 50 人/年	
アウトプット指標 (達成値)	養成者数 49 人/年 50名の受講予定であったが、決定後1名辞退したため	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標：看護師等養成所の卒業生の県内就業率 77.7% (H30)	
	<p>(1) 事業の有効性 講習会を通して、中堅看護師が、専門分野の看護知識だけではなく、看護教育や実習指導の原理等を学び、演習を行うことで臨床実習指導者の指導能力が向上した結果、看護師等養成所の卒業生の県内就業率が増加した。</p> <p>(2) 事業の効率性 大学の看護学科の新規開設、看護師養成所の定員増により、これまで実習生を受入れていなかった病院が、新規に実習施設となることから受講希望が強く、状況を鑑みて要望を取り入れることで、計画的に実習指導者を養成することができ、効率的な執行ができたと考える。</p>	
その他	※平成26年度基金とあわせて事業を実施 (H29) ※平成30年度基金を活用し、事業を継続	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.21 (医療分)】 認定看護師養成コース運営費	【総事業費 (H29)】 500 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県立看護大学	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢化の進展により医療ニーズが多様化する中で、良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制を確保するためには、高齢者の看護において求められる専門的な看護技術の習得といった看護の質の向上も課題となっており、今後の医療ニーズに対応できる質の高い看護師の確保を総合的に図っていく必要がある。	
	アウトカム指標： 県内の認知症看護認定看護師 9人 (H29) → 50人 (H32)	
事業の内容 (当初計画)	県立看護大学の「看護キャリア支援センター」において、平成29年度から新たに認知症看護認定看護師の養成コースが開講され、認知症者とその家族の支援に関する専門的知識と高度な技術を持つ認知症看護認定看護師を育成する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	コース受講者数 20人/年	
アウトプット指標 (達成値)	コース受講者数 33人/年	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標：県内の認知症看護認定看護師 21人 (H30)	
	<p>(1) 事業の有効性 県内で認定看護師養成コースを開設することで、人員不足や経費負担等の事情から、県外では長期間の研修受講が難しい病院や施設が、受講者を出しやすくなり、その結果、県内の認知症看護認定看護師の増加に繋がっている。</p> <p>(2) 事業の効率性 県内で認定看護師養成コースを開設することで、県内全域の病院からの受講者がいるため、県内看護師の質の向上になり、効率的な執行ができたと考える。</p>	
その他	※平成26年度基金とあわせて事業を実施 (H29) ※平成30年度基金を活用し、事業を継続	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.22 (医療分)】 看護教員現任研修事業	【総事業費 (H29)】 0 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県 (石川県立看護大学へ委託)	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	本県の看護職員数については、平成28年は17,422人であり、人口10万人あたりでは1,514人と全国平均の1,160人を上回っているが、能登北部では人口10万人あたりの看護職員数が他の3つの区域に比べて低い水準にとどまっており、地域偏在がみられる。高齢化の進展により医療ニーズが高まっていく中で、看護職員の確保・定着を図るためには、県内で就業する看護師を養成していく必要がある。	
	アウトカム指標：看護師等養成所の卒業生の県内就業率 69.2% (H29) → 74.0% (H30)	
事業の内容 (当初計画)	看護教員の資質を向上させるため、新任・中堅看護教員に対する研修を実施し、看護教員の経験に応じた継続研修の充実を図る。 ・看護教員研修 対象：新任・中堅の専任教員	
アウトプット指標 (当初の 目標値)	研修参加者数 20人/年	
アウトプット指標 (達成値)	—	
事業の有効性・効率性	—	
	—	
その他	※平成26年度基金にて事業実施 (H29) ※平成30年度基金を活用し、事業を継続	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.23 (医療分)】 産科医療体制強化事業	【総事業費 (H29)】 0 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	本県における産科医の人数は、出生者千人当たりでは全国平均を上回っているが、高齢化による退職と近年の研修医の就業を考慮すると、今後、減少が予想される。産科医の確保・定着を図るためには、その負担軽減も課題となっており、助産師のさらなる活用により、産科医の負担軽減等を総合的に図っていく必要がある。	
	アウトカム指標：助産師数 337人 (H26) → 増加 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	助産外来や院内助産の開設を予定している医療機関スタッフを対象に講義と演習を行う研修会を開催。	
アウトプット指標 (当初の 目標値)	・助産外来を実施する医療機関数 13施設 (H28) → 14施設 (H29)	
アウトプット指標 (達成値)	—	
事業の有効性・効率性	—	
	—	
その他	※平成26年度基金にて事業実施 (H29) ※平成30年度基金を活用し、事業を継続	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.24 (医療分)】 看護師等養成所運営費	【総事業費 (H29)】 201,890 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	看護師等養成所	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>本県の看護職員数については、平成28年は17,422人であり、人口10万人あたりでは1,514人と全国平均の1,160人を上回っているが、能登北部では人口10万人あたりの看護職員数が他の3つの区域に比べて低い水準にとどまっており、地域偏在がみられる。高齢化の進展により医療ニーズが高まっていく中で、看護職員の確保・定着を図るためには、県内で就業する看護師を養成していく必要がある。</p> <p>アウトカム指標： 当該事業を実施する看護師等養成所における看護師等の県内就業率 82.6% (H29) →87.8% (H30)</p>	
事業の内容 (当初計画)	看護師等養成所の運営費を支援することにより、教育内容を向上し、看護職員の確保及び資質の向上を図る。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	支援した養成所数 5カ所	
アウトプット指標 (達成値)	支援した養成所数 5カ所	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後1年以内のアウトカム指標：当該事業を実施する看護師等養成所における看護師等の県内就業率 88.0% (H30)</p> <p>(1) 事業の有効性 看護師等養成施設の運営費を助成することにより、教育内容を向上し、看護職員の確保及び資質の向上を図ることができたと考えられる。</p> <p>(2) 事業の効率性 全ての対象の看護師等養成所に対して支援することができた。</p>	
その他	<p>※平成26～28年度基金とあわせて事業を実施 (H29)</p> <p>※平成29、30年度基金を活用し、事業を継続</p>	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.25 (医療分)】 新人看護職員研修事業	【総事業費 (H29)】 0 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	希望する病院、石川県 (石川県看護協会へ委託)	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	本県の看護職員数については、平成28年は17,422人であり、人口10万人あたりでは1,514人と全国平均の1,160人を上回っているが、能登北部では人口10万人あたりの看護職員数が他の3つの区域に比べて低い水準にとどまっており、地域偏在がみられる。高齢化の進展により医療ニーズが高まっていく中で、看護職員の確保・定着を図るためには、新人看護職員の早期離職防止も課題となっており、今後、医療従事者の確保・偏在解消・負担軽減等を総合的に図っていく必要がある。	
	アウトカム指標：新人看護職員の離職率 6.7% (H26) → 減少 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	<p>病院等において、新人看護職員が基本的な臨床実践能力を獲得するための研修を実施することにより、看護の質の向上及び早期離職防止を図る。</p> <p>①新人看護職員研修事業費補助金 ②教育担当者研修事業 ③新人看護職員研修推進事業</p>	
アウトプット指標 (当初の 目標値)	研修参加者数 50人/年	
アウトプット指標 (達成値)	—	
事業の有効性・効率性	—	
	—	
その他	<p>※平成26年度基金にて事業実施 (H29) ※平成30年度基金を活用し、事業を継続</p>	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.26 (医療分)】 病院内保育所運営事業	【総事業費 (H29)】 0 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	医療機関の院内保育施設	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢化の進展により医療ニーズが高まっていく中で、医療従事者の確保・定着を図るためには、出産や育児による離職を防ぐことが課題の一つとなっており、医療従事者の仕事と子育ての両立を支援していく必要がある。	
	アウトカム指標：看護職員の離職率 7.3% (H28) → 減少 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	医療機関に従事する職員のために保育施設を運営する事業について支援を行い、医療従事者の離職防止及び再就業を促進する。	
アウトプット指標 (当初の 目標値)	支援した病院数 5病院	
アウトプット指標 (達成値)	—	
事業の有効性・効率性	—	
	—	
その他	※平成26年度基金にて事業実施 (H29) ※平成30年度基金を活用し、事業を継続	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.27 (医療分)】 小児救急電話相談事業	【総事業費 (H29)】 0 千円
事業の対象となる医療介護 総合確保区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県 (事業実施事業者、石川県医師会へ委託)	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	近年の少子化や核家族化に伴い、保護者に子育ての経験が少ないことや、アドバイスをしてくれる祖父母等が身近にいないことなどから、子どもの急病時に不安を感じ、軽症でも時間外に受診する保護者が多く、小児科医の確保・定着を図るためには、その負担軽減が課題となっており、保護者の不安軽減と適切な救急医療の利用を促すことによる救急医療体制の維持を総合的に図っていく必要がある。	
	アウトカム指標：高度専門小児医療機関における時間外の患者数 13,029 人 (H27) → 減少 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	夜間において、子どもの保護者が医療機関に向く前に、医療機関での受診の必要性や対処方法などを相談できる専用電話相談窓口を設置する。	
アウトプット指標 (当初の 目標値)	夜間小児救急電話相談の相談件数 9,732 件 (H28) → 増加 (H29)	
アウトプット指標 (達成値)	—	
事業の有効性・効率性	—	
	—	
その他	※平成26年度基金にて事業実施 (H29) ※平成30年度基金を活用し、事業を継続	

事業区分 3 : 介護施設等の整備に関する事業

事業の区分	3. 介護施設等の整備に関する事業																						
事業名	【NO.1】石川県介護施設等整備事業	【総事業費】	436,224 千円																				
事業の対象となる区域	県内全域																						
事業の実施主体	石川県																						
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 □継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了																						
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が住み慣れた地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。 アウトカム指標： 65 歳以上人口あたり地域密着型サービス施設等の増加																						
事業の内容 (当初計画)	<p>①地域密着型サービス施設等の整備に対する助成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設種別</th> <th>H27 年度</th> <th>H28 年度</th> <th>H29 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域密着型特別養護老人ホーム</td> <td>116 床 (4 カ所)</td> <td>203 床 (7 カ所)</td> <td>58 床 (2 カ所)</td> </tr> <tr> <td>認知症高齢者グループホーム</td> <td>18 床 (1 カ所)</td> <td>126 床 (8 カ所)</td> <td>-床 (-カ所)</td> </tr> <tr> <td>小規模多機能型居宅介護事業所</td> <td>2 カ所 (宿泊 18 床)</td> <td>5 カ所 (宿泊 45 床)</td> <td>3 カ所 (宿泊 27 床)</td> </tr> <tr> <td>定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所</td> <td>6 カ所</td> <td>1 カ所</td> <td>1 カ所</td> </tr> </tbody> </table> <p>②介護施設等の開設・設置に必要な準備経費の支援を行う</p>			施設種別	H27 年度	H28 年度	H29 年度	地域密着型特別養護老人ホーム	116 床 (4 カ所)	203 床 (7 カ所)	58 床 (2 カ所)	認知症高齢者グループホーム	18 床 (1 カ所)	126 床 (8 カ所)	-床 (-カ所)	小規模多機能型居宅介護事業所	2 カ所 (宿泊 18 床)	5 カ所 (宿泊 45 床)	3 カ所 (宿泊 27 床)	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所	6 カ所	1 カ所	1 カ所
施設種別	H27 年度	H28 年度	H29 年度																				
地域密着型特別養護老人ホーム	116 床 (4 カ所)	203 床 (7 カ所)	58 床 (2 カ所)																				
認知症高齢者グループホーム	18 床 (1 カ所)	126 床 (8 カ所)	-床 (-カ所)																				
小規模多機能型居宅介護事業所	2 カ所 (宿泊 18 床)	5 カ所 (宿泊 45 床)	3 カ所 (宿泊 27 床)																				
定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所	6 カ所	1 カ所	1 カ所																				
アウトプット指標 (当初の目標値)	<p>地域包括ケアシステムの構築に向けて、第 6 期介護保険事業支援計画等において予定している地域密着型サービス施設等の整備等を支援することにより、地域の実情に応じた介護サービス提供体制の整備を促進する。</p> <p>①地域密着型サービス施設等の整備に対する助成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設種別</th> <th>整備予定数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域密着型特別養護老人ホーム</td> <td>87 床(3 カ所)</td> </tr> <tr> <td>小規模多機能型居宅介護事業所</td> <td>3 カ所(宿泊 27 床)</td> </tr> <tr> <td>看護小規模多機能型居宅介護事業所</td> <td>1 カ所(宿泊 9 床)</td> </tr> <tr> <td>定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所</td> <td>3 カ所</td> </tr> </tbody> </table> <p>②介護施設等の開設・設置に必要な準備経費に対する支援 地域密着型特別養護老人ホーム等の開設準備経費の支援</p>			施設種別	整備予定数	地域密着型特別養護老人ホーム	87 床(3 カ所)	小規模多機能型居宅介護事業所	3 カ所(宿泊 27 床)	看護小規模多機能型居宅介護事業所	1 カ所(宿泊 9 床)	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所	3 カ所										
施設種別	整備予定数																						
地域密着型特別養護老人ホーム	87 床(3 カ所)																						
小規模多機能型居宅介護事業所	3 カ所(宿泊 27 床)																						
看護小規模多機能型居宅介護事業所	1 カ所(宿泊 9 床)																						
定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所	3 カ所																						

<p>アウトプット指標 (達成値)</p>	<p>①地域密着型サービス施設等の整備に対する助成</p> <table border="1" data-bbox="560 197 1422 689"> <thead> <tr> <th>施設種別</th> <th>H29 目標値</th> <th>H29 実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域密着型特別養護老人ホーム</td> <td>87 床 (3 カ所)</td> <td>87 床 (3 カ所)</td> </tr> <tr> <td>小規模多機能型居宅介護事業所</td> <td>3 カ所 (宿泊 27 床)</td> <td>1 カ所 (宿泊 8 床)</td> </tr> <tr> <td>看護小規模多機能型居宅介護事業所</td> <td>1 カ所 (宿泊 9 床)</td> <td>1 カ所 (宿泊 9 床)</td> </tr> <tr> <td>定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所</td> <td>3 カ所</td> <td>0 カ所</td> </tr> <tr> <td>認知症対応型デイサービス</td> <td>1 カ所</td> <td>0 カ所</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績値は、整備中のものを含む。</p> <p>②介護施設等の開設・設置に必要な準備経費に対する支援 地域密着型特別養護老人ホーム等の開設準備経費の支援</p>	施設種別	H29 目標値	H29 実績値	地域密着型特別養護老人ホーム	87 床 (3 カ所)	87 床 (3 カ所)	小規模多機能型居宅介護事業所	3 カ所 (宿泊 27 床)	1 カ所 (宿泊 8 床)	看護小規模多機能型居宅介護事業所	1 カ所 (宿泊 9 床)	1 カ所 (宿泊 9 床)	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所	3 カ所	0 カ所	認知症対応型デイサービス	1 カ所	0 カ所
施設種別	H29 目標値	H29 実績値																	
地域密着型特別養護老人ホーム	87 床 (3 カ所)	87 床 (3 カ所)																	
小規模多機能型居宅介護事業所	3 カ所 (宿泊 27 床)	1 カ所 (宿泊 8 床)																	
看護小規模多機能型居宅介護事業所	1 カ所 (宿泊 9 床)	1 カ所 (宿泊 9 床)																	
定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所	3 カ所	0 カ所																	
認知症対応型デイサービス	1 カ所	0 カ所																	
<p>事業の有効性・効率性</p>	<p>事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 地域包括ケアシステムの構築に向け、地域密着型サービス施設等の基盤整備</p> <p>(1) 事業の有効性 地域密着型サービス施設等の整備により、高齢者が住み慣れた地域において、安心して生活できる体制の構築が図られた。</p> <p>(2) 事業の効率性 行政と事業者に対し、県の事例を示す等の助言を行い、一定の共通認識のもとで施設整備を行っている。</p>																		
<p>その他</p>																			

事業区分5：介護従事者の確保に関する事業

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.2 (介護分)】いしかわ介護・福祉人材確保対策推進協議会運営事業	【総事業費】 1,012 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。 アウトカム指標：介護職員の増加 16 千人 (H24) → 18.7 千人 (H28) (→ 20 千人 (H31 目標))	
事業の内容 (当初計画)	行政・業界で構成する協議会を継続設置し、H26 年度に策定した介護・福祉人材確保・養成に関する県基本計画に基づき、対策の進捗状況把握及び具体的施策の検討	
アウトプット指標 (当初の目標値)	協議会開催回数 1 回	
アウトプット指標 (達成値)	協議会開催回数 1 回	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 介護職員の増加 (1) 事業の有効性 当該協議会を通して、地域的な課題や対策についての検討体制・協力体制を構築することができた。 (2) 事業の効率性 関係団体の意見を集約する協議会を設置・運営することにより、本県における各種施策の検討等を効率的に行うことができた。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 3 (介護分)】いしかわ魅力ある福祉職場 推進事業	【総事業費】 4,967 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニ ーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が 見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び 質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。 アウトカム指標：介護職員の増加 16 千人 (H24) → 18.7 千人 (H28) (→ 20 千人 (H31 目標))	
事業の内容 (当初計画)	人材育成や定着に取り組む事業者を認定する制度を推進し、セ ミナーなどを通して事業者を支援する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	認定法人数 40 法人	
アウトプット指標 (達成値)	認定法人数 33 法人 【未達成の原因等】 普及啓発や参加事業者支援の不足が考えられることから、次年 度は普及セミナー及び個別相談会の実施回数を増やすことと した。	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：介護職員の増加 (1) 事業の有効性 個別相談会やセミナーの開催を通して、事業者を支援する ことができた。 (2) 事業の効率性 人材育成や労務管理に知見を有するコンサルティング会 社に委託し、効率的に制度を推進することができた。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 4 (介護分)】介護・福祉の仕事の魅力発信事業	【総事業費】 4,184 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。 アウトカム指標：介護職員の増加 16 千人 (H24) → 18.7 千人 (H28) (→ 20 千人 (H31 目標))	
事業の内容 (当初計画)	<p>介護の仕事に理解を深めてもらうため、以下の取組を実施</p> <p>①プレゼン能力の高い介護・福祉職員等を「介護・福祉の仕事の魅力伝道師」として高校等に派遣</p> <p>②介護の仕事やその重要性を紹介するガイドブックを作成・配布 (小学生向け、中学・高校生向け)</p> <p>③高校の教員の介護・福祉の仕事に関する理解促進のため、職場見学及び施設長等との意見交換会を実施</p> <p>④小学生の親子等を対象に介護施設等の見学・体験ツアーを実施</p> <p>⑤介護をテーマにした作文コンクールの実施 (小・中学生)</p> <p>⑥WEB サイトを活用した情報発信</p>	
アウトプット指標 (当初の目標値)	①高校等への派遣数 30 校、④ツアー参加親子 45 組	
アウトプット指標 (達成値)	①高校等への派遣数 17 校、④ツアー参加親子 47 組	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：介護職員の増加</p> <p>(1) 事業の有効性 将来の職業の選択肢として介護・福祉の仕事が選ばれるよう、仕事のやりがいや魅力などを伝えることにより、これから進路を決定する高校生等への介護の仕事の理解促進が図られた。</p> <p>(2) 事業の効率性 伝道師の派遣は、学校へ出向くことにより、多くの生徒を対象とすることができ、効率的な執行ができたと考える。(伝道師の派遣では 1,170 名の生徒が受講) また、福祉の仕事に関する情報を集約したサイトで情報発信することで、情報を必要とする人に効率よく情報を発信できたと考える。</p>	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 5 (介護分)】「いしかわ介護フェスタ」 開催事業	【総事業費】 5,500 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	いしかわ介護フェスタ実行委員会	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。 アウトカム指標：介護職員の増加 16 千人 (H24) → 18.7 千人 (H28) (→ 20 千人 (H31 目標))	
事業の内容 (当初計画)	<ul style="list-style-type: none"> 介護事業所の職員が介護技術を発表し、競うコンテストの開催 「介護」をテーマに参加・体験型のイベントを行う (パネル展示、福祉機器・介護ロボの体験等) 	
アウトプット指標 (当初の目標値)	介護や介護の仕事に対するイメージアップ	
アウトプット指標 (達成値)	約 3,800 人の来場があり、介護についてのイメージアップに寄与した	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：介護職員の増加 (1) 事業の有効性 イベント全体を通して、普段介護に触れることのない一般の県民にも介護をアピールできた。介護技術のコンテストでは、競わせることで従事者のモチベーションの向上にも寄与した。 (2) 事業の効率性 いしかわ介護フェスタ実行委員会への委託で事業を実施することで効率的にイベントを開催できた。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 6 (介護分)】元気な中高年介護分野参入促進事業	【総事業費】 3,800 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県 (石川県社会福祉協議会へ委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。</p> <p>アウトカム指標：介護職員の増加 16 千人 (H24) → 18.7 千人 (H28) (→ 20 千人 (H31 目標))</p>	
事業の内容 (当初計画)	<p>(1) 施策推進協議体の設置 シルバー人材センターや介護関係団体等との連携推進及び事業の評価・改善を行う</p> <p>(2) 事業の P R 市町やシルバー人材センター等と連携し、就労意欲や社会参加意欲のある中高年齢者に対して積極的な働きかけを行う</p> <p>(3) 介護に関する入門的な研修の開催及び介護サービス事業所での職場体験の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修 (3 日間) 介護保険制度等の理解、コミュニケーション技術、生活支援技術など ・職場体験 (2 日間) 特別養護老人ホームなどの入所系施設 <p>(4) ハローワーク等との連携により、中高年齢者と介護サービス事業所をマッチング</p>	
アウトプット指標 (当初の目標値)	研修受講者数 150 人	
アウトプット指標 (達成値)	<p>研修受講者：117 名 (うち、18 名が介護事業所に就職)</p> <p>【未達成の原因等】 周知が十分でなかったことが一因として考えられる。今後は広報をより積極的に行い、事業への参加を促していく。</p>	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：介護職員の増加</p> <p>(1) 事業の有効性 117 名が研修に参加、うち 56 名が職場体験に参加し、18 名が介護事業所に就職して、元気な中高年齢者を対象とした介護分野参入促進事業として一定の効果があった。</p> <p>(2) 事業の効率性</p>	

	様々な研修を扱っており、マッチング専門員が配置されている社会福祉協議会に委託することで、効率的に事業を実施することができた。
その他	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 7 (介護分)】マッチング専門員配置事業	【総事業費】 10,462 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県 (石川県社会福祉協議会へ委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。 アウトカム指標：介護職員の増加 16 千人 (H24) → 18.7 千人 (H28) (→ 20 千人 (H31 目標))	
事業の内容 (当初計画)	事業所、求職者の個々の条件を調整する専任職員を配置し、ハローワークや大型商業施設への出張相談等により、個々の求職者のニーズにあった職場を紹介する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 求職者等への相談件数 200 件 ・ 情報収集のための求人事業所訪問 200 ヲ所 	
アウトプット指標 (達成値)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 求職者等への相談件数 215 件 ・ 情報収集のための求人事業所訪問 119 ヲ所 【未達成の原因等】 ヒアリング項目が増えたことにより、1 件あたりにかかる時間が増え、目標数まで達しなかったもの。	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：介護職員の増加 (1) 事業の有効性 介護関係の求人倍率は、全産業より高い水準にあることから、福祉人材センターに専門の職員を配置し、出張相談等を行う本事業は、介護・福祉分野の雇用のミスマッチの解消に有効である。 (2) 事業の効率性 求職者が集まるハローワークや就職フェアの会場での出張相談等を行うことにより、求職者に対する効率的な相談事業を実施することができている。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 8 (介護分)】介護・福祉の仕事就職面談会事業	【総事業費】 7,810 円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県 (石川県社会福祉協議会へ委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。 アウトカム指標：介護職員の増加 16 千人 (H24) → 18.7 千人 (H28) (→ 20 千人 (H31 目標))	
事業の内容 (当初計画)	①採用選考活動開始となる 6 月から計 4 回、学生向けに合同就職面談会を開催 ②他分野からの転職者や潜在人材を対象に、小規模な求人求職面談会を 10 回程度開催	
アウトプット指標 (当初の目標値)	①参加者数 500 人 ②参加者数 300 人	
アウトプット指標 (達成値)	面談会参加者数 のべ 486 人 【未達成の原因等】 養成校卒業予定者の減、全産業的な求職者数の減等により、学生・一般ともに参加者数が減少傾向。メディア等での露出を増やし、より広く周知を行う。	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：介護職員の増加 (1) 事業の有効性 学生向けには、主に就職を控えた学生が集まる時期に介護・福祉分野の合同就職面談会を開催し、一方で、他分野からの転職者や潜在人材を対象に小規模な求人求職面談会を定期的で開催したことで、それぞれの事業所のニーズに応じた職員採用の機会を提供するとともに、福祉の職場に就職を希望する学生等に対して職場の内容や求人の職種、勤務条件等を情報提供することにより、マッチングの機会を提供することができた。 (2) 事業の効率性 多くの事業所と求職者が一堂に会する就職面談会を実施することで、マッチングの効率化が図られた。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 9 (介護分)】福祉サービス総合研修事業	【総事業費】 1,506 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県社会福祉協議会	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。 アウトカム指標：介護職員の増加 16 千人 (H24) → 18.7 千人 (H28) (→ 20 千人 (H31 目標))	
事業の内容 (当初計画)	①施設の垣根を越えて新規採用職員が集まり、講演会や先輩職員との交流による仲間づくりを目的とした合同入職式の開催 ②多職種、他分野との連携を視野に、様々な分野、職種が参加し、互いの業務内容や課題を学びあう研修を実施	
アウトプット指標 (当初の目標値)	①参加者数 200 人 ②研修受講者数 60 人	
アウトプット指標 (達成値)	①参加者数 208 人 ②研修受講者数 21 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：介護職員の増加 (1) 事業の有効性 ①新規採用職員が先輩職員を交えて将来のキャリア展望等について話し合うことは、各事業所における新人育成のための制度導入につながることを期待される。 ②多職種、他分野など関係者との協働や業務課題の解決方法を学ぶことができるため、当該研修の実施は有効である。 (2) 事業の効率性 ①就業後間もない新人職員に対する事業とすることで、早期離職防止の効果的な取組となっている。 ②他職種・他分野と連携しながら仕事の価値観等を学ぶことで、効率的に職場で活用できる「ものの見方・考え方」を養うことができた。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO.10 (介護分)】 キャリアアップ支援事業	【総事業費】 1,000 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県ホームヘルパー協議会	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。 アウトカム指標： 介護サービスの質の向上	
事業の内容 (当初計画)	離職率が高いホームヘルパー等に対し、サービス提供責任者研修などキャリアアップするための研修を実施し、定着促進を図る	
アウトプット指標 (当初の目標値)	受講者数：300 人	
アウトプット指標 (達成値)	受講者数：263 人 【未達成の原因等】 より多くの方に参加いただけるよう開催日時を工夫したり、送り出す側である管理者に研修参加の意義について理解を深めてもらうほか、研修テーマも興味を引くものに設定する。	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 介護サービスの質の向上 (1) 事業の有効性 ホームヘルパー等のキャリアアップに係る専門的な知識・技術に関する階層別研修の実施は、定着促進等に有効である。 (2) 事業の効率性 ホームヘルパー協議会への補助を行うことで、効率的に研修受講者を確保することができた。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 11 (介護分)】 キャリアパス対応生涯研修	【総事業費】 4,750 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県社会福祉協議会	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。 アウトカム指標：介護サービスの質の向上	
事業の内容 (当初計画)	職員が自らのキャリアアップの道筋（キャリアパス）を描き、それぞれのキャリアパスの段階に応じて共通に求められる能力を段階的・体系的に習得することを支援する研修を実施	
アウトプット指標 (当初の目標値)	研修受講者 780 人	
アウトプット指標 (達成値)	参加者数：987 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 介護サービスの質の向上 (1) 事業の有効性 各事業所がキャリアパスの的確な運用を図る上で、当該研修の実施は有効である。 (2) 事業の効率性 キャリアパスの段階に応じて、段階的・体系的な研修を実施することで、各段階において必要な能力を効率的に修得させることができた。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 12 (介護分)】 認知症介護サービス向上 推進事業	【総事業費】 1,316 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。 アウトカム指標：介護職員の資質向上	
事業の内容 (当初計画)	在宅認知症高齢者の多くが利用する通所介護事業所等を対象とし、介護職員がサービス提供時に認知症について理解を深めるための研修を実施 ①認知症介護サービス向上研修（集合研修） 全サービス向け研修の実施 ②認知症介護サービス向上アドバイザー派遣（事業所訪問研修） 小規模の通所介護事業所等へ講師を派遣し、事業所内での認知症専門研修の実施	
アウトプット指標 (当初の目標値)	①認知症介護サービス向上研修（集合研修） 50 人×5 回=250 人 ②認知症介護サービス向上アドバイザー派遣（事業所訪問研修） 35 ヲ所	
アウトプット指標 (達成値)	①認知症介護サービス向上研修（集合研修） 260 人受講 ②認知症介護サービス向上アドバイザー派遣（事業所訪問研修） 25 ヲ所	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：介護職員の資質向上 (1) 事業の有効性 集合研修 260 名、訪問研修 25 事業所が受講し、認知症ケアについて学んだ。アンケート結果でも、約 85%以上の受講者が「認知症ケアについての考え方に変化があった」と回答しており、介護従事者の認知症対応力の強化、サービスの質の向上に寄与している。 (2) 事業の効率性 集合研修について、通所系サービス向けと全サービス向けに分けて開催していたものを、全サービス向けに一本化し、職員が参加できる日程が増えたため、効率的な執行ができたと考える。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO.13 (介護分)】 介護職員等によるたんの吸引等の研修事業	【総事業費】 9,917 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県 (石川県社会福祉協議会へ一部委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。	
	アウトカム指標：介護職員の資質向上	
事業の内容 (当初計画)	特別養護老人ホーム等の高齢者施設、障害者施設及び訪問介護事業所等において、たんの吸引等の医療行為を行う介護職員等に対する研修を実施。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	① 介護職員向け研修 ・ 第 1・2 号研修 (不特定多数の者対象) 100 人×年 2 回=200 人 ・ 第 3 号研修 (特定の者対象) 40 人×年 1 回= 40 人 ② 医師・看護師等向け研修 (指導者養成講習) ・ 第 1・2 号研修 30 人×年 2 回= 60 人 ・ 第 3 号研修 随時 (DVD 学習)	
アウトプット指標 (達成値)	(1) 介護職員向け研修 ・ 第 1・2 号研修 (不特定多数の者対象) 133 人受講 ・ 第 3 号研修 (特定の者対象) 22 人受講 (2) 医師・看護師等向け研修 (指導者養成講習) ・ 第 1・2 号研修 36 人受講 ・ 第 3 号研修 (DVD 学習) 24 人受講 【未達成の原因等】 介護施設等において、一定数以上の研修修了者が確保できてきたことから、想定していた目標値に研修修了者数が届かなかったと思われる。しかし、平成 30 年度からは、療養病床に代わる新たな介護医療院が創設されたことや、特養の夜勤加算要件として研修修了者の配置が介護報酬上評価されることとなったことから、研修受講者数が増加することが見込まれる。	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： たんの吸引等医療的ケアを行う介護職員の養成 (介護職員向け研修 155 人受講)	
	(1) 事業の有効性 本事業により、たんの吸引等が実施可能な介護職員の登録者数 (認定特定行為業務従事者) が 3,098 人から 3,210 人に	

	<p>増加し、たんの吸引等医療的ケアが必要な者が安全にケアを受けられる体制が強化された。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>様々な研修を扱っている石川県社会福祉協議会に委託することで、事業が効率的に実施された。</p>
その他	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 14 (介護分)】 実践介護技術出前講座 事業	【総事業費】 321 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。 アウトカム指標：介護職員の資質向上	
事業の内容 (当初計画)	人材育成が困難な小規模な介護事業所等に対し、介護福祉士養成校の教員や優れた介護職員を派遣し、介護に関する知識・技術等を指導することにより、介護職員の資質向上を図る	
アウトプット指標 (当初の目標値)	出前講座実施回数 35 回	
アウトプット指標 (達成値)	出前講座実施回数 16 回 【未達成の原因等】 周知が十分でなかったことが一因として考えられる。今後は広報をより積極的に行い、参加を促していく。	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：介護職員の資質向上 (1) 事業の有効性 外部研修等を受講することが困難な小規模な介護事業所に、出前講座という形式で講座を実施することは、職員の資質の向上及び職員間の介護方法の確認及び統一を図ることを促進する。 (2) 事業の効率性 事業所の希望の日時に合わせて、講師が出向いて講座を実施することから、多くの介護職員が受講することができ、効率的な執行ができたと考える。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 15 (介護分)】 介護支援専門員研修事業	【総事業費】 23,644 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県 (石川県社会福祉協議会へ委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。	
	アウトカム指標：介護職員の資質向上	
事業の内容 (当初計画)	介護支援専門員を養成するとともに、専門性の向上を図るため、段階に応じて必要な研修を体系的に実施 ①介護支援専門員実務従事者基礎研修 ②介護支援専門員専門研修 ③介護支援専門員更新研修	
アウトプット指標 (当初の目標値)	①介護支援専門員実務従事者基礎研修 175 人 ②介護支援専門員専門研修 99 人 ③介護支援専門員更新研修 273 人	
アウトプット指標 (達成値)	受講者数 (1) 介護支援専門員実務従事者基礎研修 234 人 (2) 介護支援専門員専門研修 110 人 (3) 介護支援専門員更新研修 267 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 質の高い介護支援専門員の増加	
	(1) 事業の有効性 カリキュラムは研修科目、時間数、実施方法ともに全国統一になっており質の担保が確保されている。 (2) 事業の効率性 介護支援専門職としての専門的知識及び技術の向上が図られた。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 16 (介護分)】 介護の実践力強化事業	【総事業費】 570 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。 アウトカム指標：介護職員の資質向上	
事業の内容 (当初計画)	重度化防止・自立支援といった観点から、全国の参考にすべき取組を行っている事業所の職員等を本県へ招へいし、実際の介護現場において具体的な取り組みを学ぶ実践的な研修を実施	
アウトプット指標 (当初の目標値)	研修実施施設 3 施設 (周辺の参加施設 計 100 施設)	
アウトプット指標 (達成値)	研修実施施設 3 施設 (周辺の参加施設 計 67 施設) 【未達成の原因等】 事業者への周知が十分でなかったことや実施時期が一員だと考えられる。今後は更なる周知を行うとともに、アンケート結果をもとに事業所のニーズを汲み取った内容となるよう見直しを図る。	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 質の高い介護職員の増加 (1) 事業の有効性 介護の先進事例についての研修を県内の介護事業所を対象に実施するものであり、参加者へのアンケートでは全員が「大変参考になった」「参考になった」と回答している。また、先進事例の導入について前向きな回答も見受けられた。 (2) 事業の効率性 介護事業所を研修場所とすることで、会場借上費や実習で用いる備品費を少なくし、費用の節減を図っている。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 17 (介護分)】潜在介護人材再就業促進事業	【総事業費】 11,000 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県、石川県社会福祉協議会	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。</p> <p>アウトカム指標：介護職員の増加 16 千人 (H24) → 18.7 千人 (H28) (→ 20 千人 (H31 目標))</p>	
事業の内容 (当初計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・離職介護福祉士等届出制度の登録者に対し、求人情報などの提供、再就業への不安解消のための職場体験や準備講習を実施 ・専門職員による個別の雇用条件の調整・マッチングなどにより、潜在介護人材の再就業を促進 	
アウトプット指標 (当初の目標値)	離職介護福祉士等届出制度 登録者数 700 人	
アウトプット指標 (達成値)	登録者数：1,592 人	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 介護職員の増加</p> <p>(1) 事業の有効性 潜在介護人材のデータベースを構築することにより、潜在介護人材へ求人・イベント情報等を提供する仕組みが整い、潜在介護人材の掘り起こし対策を進めることができるようになった。</p> <p>(2) 事業の効率性 介護福祉士養成校やヘルパー研修事業者の協力により、効率的に登録者を確保することができた。</p>	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 18 (介護分)】 認知症初期集中支援チーム員研修事業	【総事業費】 1,760 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県 (国立長寿医療研究センターへ委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。 アウトカム指標：19 市町で事業 (チーム設置) 実施	
事業の内容 (当初計画)	初期集中支援チーム員に対する、必要な知識や技術を習得するための研修	
アウトプット指標 (当初の目標値)	19 市町×3.2 人≒61 人	
アウトプット指標 (達成値)	15 市町 44 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 19 市町で事業 (チーム設置) 実施 (1) 事業の有効性 平成 30 年 4 月までに全ての市町に設置が完了した。 (2) 事業の効率性 専門機関が実施する研修に参加することで、効率的に必要な知識が得られる。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 19 (介護分)】 認知症地域支援推進員 研修	【総事業費】 1,900 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県 (認知症介護研究・研修東京センターへ委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。	
	アウトカム指標：介護職員の資質向上	
事業の内容 (当初計画)	認知症地域支援推進員に対する、必要な知識や技術を習得するための研修	
アウトプット指標 (当初の目標値)	19 市町×2.5 人≒48 人	
アウトプット指標 (達成値)	16 市町 50 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 19 市町で事業（認知症地域支援推進員の設置）実施	
	(1) 事業の有効性 平成 29 年度末までに全ての市町に設置が完了した。 (2) 事業の効率性 専門機関である認知症介護研究・研修センターに委託することで、効率的な研修を行うことができた。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 20 (介護分)】 認知症介護指導者養成研修事業	【総事業費】 0 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県 (認知症介護研究・研修大府センターへ委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。	
	アウトカム指標：介護職員の資質向上	
事業の内容 (当初計画)	認知症介護実践研修等を充実させるため、県内の認知症介護指導者を養成するための研修を実施 ・ 認知症介護指導者フォローアップ研修	
アウトプット指標 (当初の目標値)	・ 認知症介護指導者フォローアップ研修：1 人	
アウトプット指標 (達成値)	・ 認知症介護指導者養成研修：1 人 【未達成の原因等】 長期研修であるため受講者がいなかったが、介護人材確保に必要な研修であるため、今後受講者が増加するよう働きかけていく	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：介護職員の資質向上	
	<p>(1) 事業の有効性 認知症介護指導者の増加・資質向上により介護職員の資質向上に繋がると考えられる。</p> <p>(2) 事業の効率性 専門機関である認知症介護研究・研修センターに委託することで、事業が効率的に実施できる。</p>	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 21 (介護分)】 薬剤師等認知症対応力向上研修事業	【総事業費】 3,600 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県 (石川県薬剤師会、石川県歯科医師会、石川県看護協会へ委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。 アウトカム指標： 認知症に関する知識を習得し、適切なサービスを提供できる薬剤師等を増加させる。	
事業の内容 (当初計画)	薬剤師・歯科医師・看護師に対し、認知症対応力の向上や対応マニュアル作成等を図るための研修を実施。 ①薬剤師の認知症対応力向上研修 1 回×2 ヶ所 ②歯科医師の認知症対応力向上研修 1 回×2 ヶ所 ③看護職員の認知症対応力向上研修 2 回×1 ヶ所	
アウトプット指標 (当初の目標値)	①薬剤師の認知症対応力向上研修受講者 250 人／年 ②歯科医師の認知症対応力向上研修受講者 250 人／年 ③看護職員の認知症対応力向上研修受講者 200 人／年	
アウトプット指標 (達成値)	①薬剤師の認知症対応力向上研修受講者 123 人 ②歯科医師の認知症対応力向上研修受講者 48 人 ③看護職員の認知症対応力向上研修 171 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 認知症への対応力が向上した薬剤師・歯科医師の増加 (1) 事業の有効性 本事業により、認知症への対応力が向上した薬剤師・歯科医師が増加し、認知症の早期発見・早期対応が可能な体制に強化された。 (2) 事業の効率性 薬剤師や歯科医師の関係団体に委託することで、事業が効率的に実施された。	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 22 (介護分)】 認知症初期対応強化推進事業	【総事業費】 278 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。	
	アウトカム指標：介護職員の資質向上	
事業の内容 (当初計画)	平成 30 年 4 月までに全市町で設置される「認知症初期集中支援チーム」の立ち上げ及びスキルアップを支援 ・チーム運営に係る研修会の開催 ・事例検討を通じたスキルアップ研修会の実施 ※対象は、市町職員、包括職員、チーム員 (医師を含む)、専門医療機関職員等を予定	
アウトプット指標 (当初の目標値)	市町における認知症初期集中支援チームの設置 19 市町	
アウトプット指標 (達成値)	市町における認知症初期集中支援チームの設置 19 市町 ・チーム設置・運営研修 2 回 (102 人参加)	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： チーム未設置市町への設置促進、設置市町におけるチームの質の向上	
	<p>(1) 事業の有効性 県外の先進的な自治体を呼ぶことでチーム設置市町だけでなく、未設置の市町にも参考となった。</p> <p>(2) 事業の効率性 国の研修を受講していない市町担当者にも参加してもらうことで、早期のチーム設置を促すことができた。</p>	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO.23 (介護分)】 認知症対応型サービス 研修事業	【総事業費】 3,662 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県 (石川県社会福祉協議会へ委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。	
	アウトカム指標：介護職員の資質向上	
事業の内容 (当初計画)	事業所の適正な運営を確保し、サービスの質の向上を図るため、地域密着型サービス事業所の代表者及び管理者に事業所を運営していく上で必要な知識・技術を習得させるための研修を実施。 ①認知症対応型サービス事業開設者研修 ②認知症対応型サービス事業管理者研修 ③小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修	
アウトプット指標 (当初の目標値)	①認知症対応型サービス事業開設者研修 20 人／年 1 回 ②認知症対応型サービス事業管理者研修 40 人／年 2 回 ③小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 20 人／年 2 回	
アウトプット指標 (達成値)	・ 認知症対応型サービス事業開設者研修：6 人 ・ 認知症対応型サービス事業管理者研修：58 人 ・ 小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修：25 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：介護職員の資質向上	
	<p>(1) 事業の有効性</p> <p>地域密着型サービス事業所の代表者及び管理者には研修受講が義務付けられており、本研修を受けた者によって事業所が適正に運営されている。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>様々な研修を扱っている石川県社会福祉協議会に委託することで、事業が効率的に実施された。</p>	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 24 (介護分)】 認知症医療体制推進事業	【総事業費】 4,227 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。	
	アウトカム指標：介護職員の資質向上	
事業の内容（当初計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・ かかりつけ医等への認知症対応力向上のための研修会の実施 ・ 認知症サポート医養成のため、養成研修会へ県内の医師を派遣 	
アウトプット指標（当初の目標値）	研修修了者数 600 人以上（H29）	
アウトプット指標（達成値）	研修修了者数 458 人（H29） （認知症対応力向上研修 430 人、サポート医 28 人）	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 介護職員の資質向上	
	<p>（1）事業の有効性 認知症対応力向上研修の中で、多職種が参加する事例検討会を行うことで、地域で認知症のある方を支えていくための医療・介護関係者の顔の見える関係づくりと多職種の協力体制の構築ができた。</p> <p>（2）事業の効率性 各郡市医師会へ地域事例検討会の開催を委託し、地域の実情に応じた事例検討会を開催することができた。</p>	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 25 (介護分)】福祉用具を用いた自立促進、介護軽減のための人材育成強化事業	【総事業費】 4,927 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。	
	アウトカム指標：介護職員等の資質向上	
事業の内容 (当初計画)	福祉用具を適切に提供できる支援者や、介護負担の軽減を目的とした福祉用具や福祉ロボットを有効に扱える人材を育成することを目的とした研修を実施。 ①リハビリテーション専門職や福祉用具専門相談員の福祉用具適合・選定力向上を目的とした人材育成 ②製造業OBや工学系学生等の潜在的な技術力を有効活用し、自助具等を製作、提供できるボランティア育成 ③介護従事者の腰痛予防及び介護負担軽減を目的に、施設職員を対象とした福祉用具の有効活用、利用定着を促進する人材育成 ④医療・福祉・工学分野の学生等を対象にした、最新福祉用具、バリアフリー住環境等の体験教育及び啓発普及	
アウトプット指標 (当初の目標値)	①車椅子等の福祉用具適合・調整研修 ②自助具製作ボランティア(新たな介護人材)の育成研修 ③介護従事者等への腰痛予防、介護負担軽減の実技研修 ④バリアフリー住環境及び福祉用具の体験実習	100 人／年 20 人／年 150 人／年 2000 人／年
アウトプット指標 (達成値)	① 補装具(車椅子)の適合・調整研修修了者(演習方式3回コース)：受講者 204 名／年 ② 自助具製作ボランティア(新たな介護人材)：11 回(18 人)開催 ③ 介護従事者等への腰痛予防、介護負担軽減の実技研修(5 回開催)：受講者 198 名／年 ④ バリアフリー住環境および福祉用具の体験実習(89 回開催)：受講者 3,217 名／年	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 医療、教育、施設等からセンターへの相談支援の依頼が増加 H28：1,396 件 → H29：1,574 件 (うち 市町、地域包括支援センター等とセンターの連携強化 市町等からの依頼件数 H28：281 件 → H29：302 件)	

	<p>(1) 事業の有効性</p> <p>本事業により介護支援専門員、福祉用具専門相談員、リハビリテーション専門職等に福祉用具を用いた自立生活支援を紹介し、実際の手法を演習することで、一定の共通認識が図られ、高齢者や障害のある方に対する身近な地域での取組みを進めることができた。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>高齢者や障害のある人の支援計画、福祉用具の適合・供給、フォローアップ等の一連の支援に関わる人材に対し、福祉用具等による技術支援の手法を紹介することで、一定の共通認識が図られ、高齢者や障害のある人の能力を尊重した生活支援が各地域で展開されている。</p> <p>また、医療・福祉・工学分野の学生等を対象に、最新の福祉用具、バリアフリー住環境等の体験教育及び啓発普及を図ることで、将来の医療・介護分野で活躍する人材育成の強化に努めている。</p>
その他	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 26 (介護分)】地域包括支援センター機能強化推進事業	【総事業費】 748 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。 アウトカム指標：介護職員の資質向上	
事業の内容 (当初計画)	・市町それぞれの課題に助言するアドバイザー・専門職の派遣 ・地域包括支援センターに携わる職員を対象とした、センターの運営と地域支援事業の効果的な実施のための研修の開催	
アウトプット指標 (当初の目標値)	研修受講者数 300 人	
アウトプット指標 (達成値)	研修受講者数 119 人 【未達成の原因等】 研修回数が増減となったため 計画策定年度であり、研修の開催に代わり各市町へヒアリングを実施、今後ヒアリングや計画の進捗状況を踏まえて研修を企画、実施していく	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：介護職員の資質向上 (1) 事業の有効性 地域包括支援センター、市町担当職員への研修等により、市町における地域包括ケアシステムの構築につなげた (2) 事業の効率性 地域包括支援センター、市町担当職員への研修等により、市町における地域支援事業の効果的な実施につなげた	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 27 (介護分)】生活支援コーディネーター養成研修事業	【総事業費】 850 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県 (石川県社会福祉協議会へ委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。</p> <p>アウトカム指標：介護職員の資質向上</p>	
事業の内容 (当初計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村で配置を予定している生活支援・介護予防の基盤整備を進める「生活支援コーディネーター」等に対する研修の実施 ・各市町の生活支援コーディネーター間での情報交換等を行う連絡会の開催 	
アウトプット指標 (当初の目標値)	研修受講人数 80 人	
アウトプット指標 (達成値)	研修受講人数 延べ 189 人 (研修：2 回、連絡会：2 回)	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 介護職員の資質向上</p> <p>(1) 事業の有効性 研修により、市町等における生活支援コーディネーターや協議体への理解が深まった。</p> <p>(2) 事業の効率性 様々な研修を扱っている石川県社会福祉協議会に委託することで、事業が効率的に実施された。</p>	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 28 (介護分)】在宅医療・介護連携推進事業	【総事業費】 2,127 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県 (石川県看護協会、石川県介護支援専門員協会へ一部委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。	
	アウトカム指標：介護職員の資質向上	
事業の内容 (当初計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・市町の在宅医療・介護連携推進事業で中心的な役割を担う方を対象とした研修 ・医療と介護の連携を現場で担う介護支援専門員への研修 ・市町担当者会議、連絡会等 	
アウトプット指標 (当初の目標値)	在宅医療・介護連携推進事業に取り組む市町数 19 市町	
アウトプット指標 (達成値)	在宅医療・介護連携推進事業に取り組む市町数 19 市町	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：介護職員の資質向上	
	<p>(1) 事業の有効性</p> <p>事業を進める市町職員や中心となる在宅医療・介護連携推進コーディネーターに効果的な事業の推進に資する研修を行うとともに、介護支援専門員にも医療ニーズに対応するケアマネジメント等を学んでもらい、行政・実務両面から連携の体制構築を支援できた</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>研修と同時に県内市町で意見交換を行う機会を複数回設け、効率的に市町事業の推進を支援できた</p>	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 29 (介護分)】 O J T 指導者養成研修事業	【総事業費】 1,161 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県社会福祉協議会	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。</p> <p>アウトカム指標：介護職員の増加 16 千人 (H24) → 18.7 千人 (H28) (→ 20 千人 (H31 目標))</p>	
事業の内容 (当初計画)	プリセプター等、新人職員を指導する職員に対し、人材育成の基礎などを学ぶ研修を実施	
アウトプット指標 (当初の目標値)	研修受講者数 60 人	
アウトプット指標 (達成値)	研修受講者数：75 人	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 介護職員の増加</p> <p>(1) 事業の有効性 新人職員を指導する職員に対して、効果的な職場研修の仕組み・手順を修得する研修を行い、職員の早期離職防止・定着促進を図ることができるため、当該研修の実施は有効である。</p> <p>(2) 事業の効率性 人材育成の意義や方向性、指導担当者として求められる役割を学び、職場研修の仕組みや推進の手順を習得することで、早期離職防止・定着促進の効果的な取組となっている。</p>	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 30 (介護分)】 トップマネジメントセミナー事業	【総事業費】 1,200 千円
事業の対象となる区域	県内全域	
事業の実施主体	石川県社会福祉協議会	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年までに、増加・多様化が見込まれる介護ニーズに対応するため、介護従事者の確保及び質の高いサービスを安定的に提供することが求められている。 アウトカム指標：介護職員の増加 16 千人 (H24) → 18.7 千人 (H28) (→ 20 千人 (H31 目標))	
事業の内容 (当初計画)	経営・管理者層に対する人材確保・養成を含む法人経営に関する研修を実施	
アウトプット指標 (当初の目標値)	研修受講者数：200 人	
アウトプット指標 (達成値)	研修受講者数：206 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 介護職員の増加 (1) 事業の有効性 福祉・介護人材の確保・定着率向上のためには、経営者・管理者のマネジメント力を高めることが有効である。 (2) 事業の効率性 複数回にわたって、講義・演習をすることで、経営者・管理者等が働きやすい職場づくりのための人材確保・定着に関する手法を効率的に学ぶことができた。	
その他		